

3. 3 サブプロジェクト①の管理・運営

(1) 業務の内容

(a) 業務の目的

「首都直下地震の地震ハザード・リスク予測のための調査・研究の運営委員会」を開催し、サブプロジェクト①の総括的・効率的な運営を図る。また、研究成果の利活用や研究協力の推進のために、交流会等による国内外の研究者との議論や報告書等の作成を行う。

(b) 平成25年度業務目的

- 1) サブプロジェクト①の総括的・効率的な運営を図るため、代表研究機関である国立大学法人東京大学地震研究所の研究者及び分担研究機関並びに関連研究機関の研究者等が参加する「首都直下地震の地震ハザード・リスク予測のための調査・研究の運営委員会」を2回程度開催する。
- 2) MeSO-net により得られたデータ等の活発な利用に向けて、交流会を開催して、広く国内外の研究者と議論する機会を設け、最新の研究動向を把握する。
- 3) 南関東の地震像の解明のため、サブプロジェクト①とカリフォルニアで得られた研究成果を比較検討し、国立大学法人東京大学地震研究所と学術協力協定を結ぶ南カリフォルニア地震センターと研究協力を進める。
- 4) 成果を活用促進し多くの人々へ向けて広報するために、報告書等の作成とホームページへの掲載を行う。
- 5) 統括委員会の事務局を担う。

(c) 担当者

所属機関	役職	氏名	メールアドレス
東京大学地震研究所	教授	平田 直	

(2) 平成25年度の成果

(a) 業務の要約

- 1) サブプロジェクト①の総括的・効率的な運営を図るため、代表研究機関である国立大学法人東京大学地震研究所の研究者及び分担研究機関並びに関連研究機関の研究者等が参加する「首都直下地震の地震ハザード・リスク予測のための調査・研究の運営委員会」を2回開催した。
- 2) MeSO-net により得られたデータ等の活発な利用に向けて、交流会を開催して、広く国内外の研究者と議論する機会を設け、最新の研究動向を把握した。
- 3) 南関東の地震像の解明のため、サブプロジェクト①とカリフォルニアで得られた研究成果を比較検討し、国立大学法人東京大学地震研究所と学術協力協定を結ぶ南カリフォルニア地震センターと研究協力を進めた。
- 4) 成果を活用促進し多くの人々へ向けて広報するために、報告書等の作成とホームページへの掲載を行った。
- 5) 統括委員会の事務局を担った。

(b) 業務の成果

1) 首都直下地震の地震ハザード・リスク予測のための調査・研究の運営委員会

平成 25 年 10 月 3 日と平成 26 年 2 月 13 日に「首都直下地震の地震ハザード・リスク予測のための調査・研究の運営委員会」を開催した。各サブテーマの代表者と有識者から構成される運営委員会委員とオブザーバが出席し、サブテーマごとに進捗状況と今後の見通しについて説明があった。これらの説明をもとに意見交換や総合的な議論を行い、プロジェクトを円滑に推進させた。

なお、運営委員会の議事録は、4.1 会議録に掲載した。

2) MeSO-net データの利用に関する交流会

首都圏地震観測網（MeSO-net）により得られたデータのプロジェクトの各課題での利用について検討するため、平成 26 年 1 月 9 日にサブプロジェクト①全体のワークショップを東京大学地震研究所セミナー室において開催した。参加者は 27 名（うち国外 1 名）であった。プログラムを表 1（P.174）に示す。本ワークショップでは、各課題の研究者から現在進めている研究について発表をしてもらい、それを元に今後のデータ利用等について議論を行った。

3) 南カリフォルニア地震センターとの研究協力

サブテーマ「首都圏の過去の地震活動に基づく地震活動予測手法の確立」では、南カリフォルニア地震センターと協力して CSEP のソフトウェア導入や予測モデルの検証を行っている（3.1.4 参照）。サブテーマ「首都圏での地震発生過程の解明」では Gregory Beroza 教授（スタンフォード大学）、サブテーマ「プレート構造・変形過程と地震発生過程の解明」では David Okaya 准教授（南カリフォルニア大学）などと共に MeSO-net のデータを用いた研究について協力を進めている。

また、米国ロサンゼルスで ShakeOut に合わせて開催された交流会に参加し、議論を行った（3.4 参照）。

4) ホームページ等の作成

MeSO-net 観測について紹介した 4 ページの簡単なパンフレットを作成した。また、サブプロジェクト①の研究内容を紹介するホームページを更新した。ホームページの URL は、<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/project/toshi/>である。

5) 統括委員会事務局

統括委員会事務局として、「都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクト統括委員会」を 2 回開催した。詳細については 3.4 を参照されたい。

(c) 結論ならびに今後の課題

「首都直下地震の地震ハザード・リスク予測のための調査・研究の運営委員会」を 2 回開催した。MeSO-net データ利用に関する交流会を開催した。南カリフォルニア地震センタ

一との研究協力を進めた。ホームページを更新した。統括委員会事務局として、「都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクト統括委員会」を開催した。

(d) 引用文献

なし

(e) 学会等発表実績

学会等における口頭・ポスター発表

なし

学会誌・雑誌等における論文掲載

なし

マスコミ等における報道・掲載

なし

(f) 特許出願，ソフトウェア開発，仕様・標準等の策定

1) 特許出願

なし

2) ソフトウェア開発

なし

3) 仕様・標準等の策定

なし

(3) 平成26年度業務計画案

- 1) サブプロジェクト①の総括的・効率的な運営を図るため、代表研究機関である国立大学法人東京大学地震研究所の研究者及び分担研究機関並びに関連研究機関の研究者等が参加する「首都直下地震の地震ハザード・リスク予測のための調査・研究の運営委員会」を2回程度開催する。
- 2) 首都圏地震観測網（MeSO-net）により得られたデータ等の活発な利用に向けて、交流会を開催して、広く国内外の研究者と議論する機会を設け、最新の研究動向を把握する。
- 3) 南関東の地震像の解明のため、サブプロジェクト①とカリフォルニアで得られた研究成果を比較検討し、国立大学法人東京大学地震研究所と学術協力協定を結ぶ南カリフォルニア地震センターと研究協力を進める。
- 4) サブプロジェクト①で得られた情報、過去の災害知見・教訓に関する国内外の研究成果、地震ハザードに関する成果を他のサブプロジェクトに提供する。
- 5) 収集したデータやこれまでに得られた成果等を地震防災知識の普及、防災意識の啓発に活かすための教育者や研究者、行政関係者等と連絡組織の運営を行う。

- 6) 成果を活用促進し多くの人々へ向けて広報するために、報告書等の作成とホームページへの掲載を行う。
- 7) 「都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクト統括委員会」の事務局を担う。

表 1 サブプロジェクト①ワークショップ プログラム

日時：2014 年 1 月 9 日（木）10 時～17 時 30 分

場所：東京大学地震研究所 1 号館 2 階セミナー室

第 1 部 話題提供（発表 15 分、質疑 5 分）

座長：ヤニス

平田 挨拶・趣旨説明

石辺 関東で発生した大地震カタログの構築にむけて
ー安政江戸地震・関東地震とその前後の地震活動に焦点をあててー

村岸 地震史料のデータベース化とその活用

佐竹 補足

横井 首都圏の地震発生予測モデルの構築に向けて
ー震源の深さに注目した地震カタログの評価ー

鶴岡 補足

橋間 2011 年東北沖地震に伴う首都圏下の応力変化シミュレーションに向けて：
日本列島域の 3 次元地下構造の効果

石川 首都圏周辺域の地殻マントル構成岩石モデルの構築に向けて

佐藤 補足

昼休み

座長：石辺

ヤニス 首都直下の減衰構造

本多 プレート沈み込み帯近傍での地震像

酒井 補足

林 Higher-reliability automatic modeling for large quantities of buildings

廣瀬 大規模数値解析結果の先端可視化技術の進展

堀 補足

休憩

第 2 部 議論

座長：平田